

おけのこ

普光寺磨崖仏(豊後大野市朝地町)

第1回定例県議会 将来像を見据えた 新長期計画の策定を



二月二十六日に開会した二〇二四年第一回定例県議会は、三月二十七日に上程議案に対する採決が行われ、三十一日間にわたる全会議日程を終えました。今議会にて、県民クラブを代表して登壇し、全十七項目からなる代表質問を行いました。

また、先日の能登半島地震では海底活断層の大規模破壊が起きました。中央構造線断層帯に沿う豊予海峡ルートに関する土木工学的、地質学的リスクなどの技術的課題について評価し、県民に周知していくことも大切だと思えます。

こうしたことを踏まえ、並行実施となった場合の実質的な地元負担や技術的課題への評価を含め、東九州新幹線及び豊予海峡ルートへの推進に向けた県民や関係各県

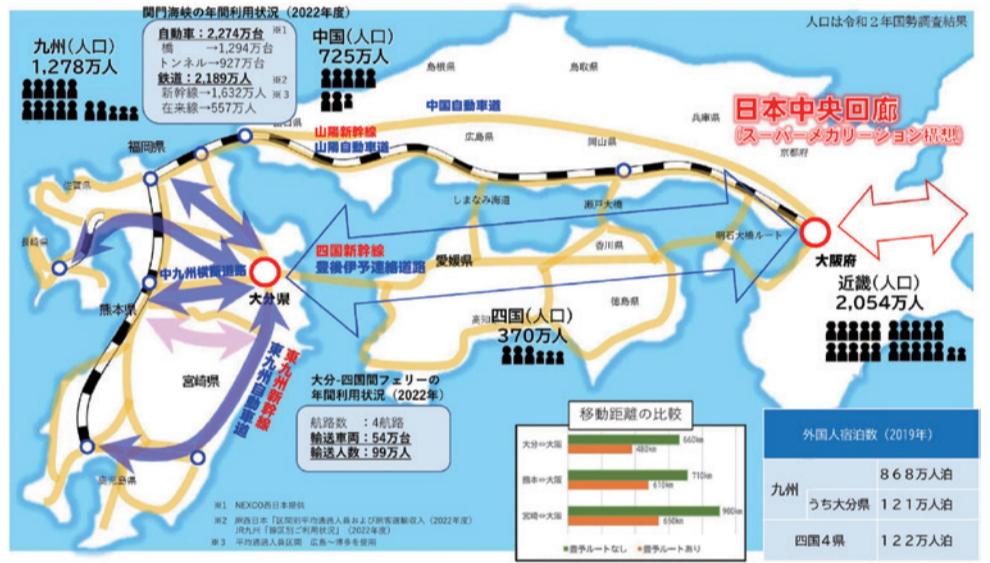


東九州新幹線のルート設定は、福岡市と大分市を結ぶ新ルートの検討が行われ、動揺を感じる県民も少なからずいるようです。豊予海峡ルートもそうですが、両プロジェクトの実現を図るにしても、西九州新

幹線の様な事例も踏まえ、円滑に県民や関係各県の合意形成を図っていくことが重要と考えています。

また、先日の能登半島地震では海底活断層の大規模破壊が起きました。中央構造線断層帯に沿う豊予海峡ルートに関する土木工学的、地質学的リスクなどの技術的課題について評価し、県民に周知していくことも大切だと思えます。

東九州新幹線及び豊予海峡ルートについて



昨年十一月に、交通政策、防災や地質等の有識者で構成する研究会を立ち上げ、広域交通ネットワークの整備効果や課題について、様々な角度から議論していただいた。議員ご指摘のとおり、研究会からも地方自治体の負担の大きさという課題も示された。

地質学的リスクについても来年度、過去に旧日本鉄道建設公団が行った豊予海峡の地質等に関する詳細な調査資料を入手し、県として最新の知見を用いて再度内容を検証する予定。

加えて、これらの情報を広く県民に周知し理解してもらえらるよう、HP等を作成するとともに、SNSの活用等による幅広い世代に向けた情報発信にも力をいれていく。

地域共生社会の実現について

厚生労働省の「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部によれば、「丸ごと」というのは、高齢者・障がい者・子どもといった対象者ごとに整備された「縦割り」の公的福祉サービスや、人口減少、家族・地域社会の変容などの背景を踏まえ「丸ごと」のサービ

しかし、こうした活動を地域住民が主体となって行うにしても、その活動を担う組織基盤なくしては上手く進みません。まずは住民の皆さんが「我が事・丸ごと」地域共生社会について理解し、そのうえで地域住民の組織づくりに取り組みなければなりません。

こうしたことを踏まえ、地域共生社会の実現に向けてどのように取り組んでいくのかお伺いします。

地域づくりと包括的な相談支援を一体的に行う重層的な支援体制整備事業の実施を市町村に働きかけており、今年度は五市町で、来年度は新たに四市町で開始する予定。令和十年度までには県内全市町村での包括的な支援体制の整備を図る。

災害時の避難支援について

この度の能登半島地震における被災者の休養の場所として、国が手配したフェリーが活用されました。船内では食事や入浴が無料で提供されるほか、一泊まで宿泊することも可能とされ、一日に三百人程度まで利用できる取扱いでした。

一方、二〇二三年に発生したトルコ地震では、避難所として千人乗りクルーズ船が活用された例があり、高齢者や障がいを持つ方などが優先で乗船したとされま

今後の県政運営「行財政改革」「DXの推進」「交通政策」「観光施策」「多文化共生社会の推進」「農林水産業の振興」「物価高騰下における土木建築事業の推進」「遠隔教育システムの活用」

その他の質問項目

「今後の県政運営」「行財政改革」「DXの推進」「交通政策」「観光施策」「多文化共生社会の推進」「農林水産業の振興」「物価高騰下における土木建築事業の推進」「遠隔教育システムの活用」



大分県議会 インターネット中継

県議会ホームページにて本会議の中継録画を視聴できます

紙面の都合上、質問と答弁の内容をすべて掲載できず申し訳ございません。県議会HPにて、質問の全録画をご視聴できますのでご案内します。

<https://oita-pref.stream.jfit.co.jp/>
→「議員から選ぶ」→「木田昇」を選択

記載するよう知事会等を通じて要望していく必要があると思えます。

こうした能登半島地震の状況を踏まえ、避難支援に活かしていく必要があると考えますが知事の考えをお聞かせください。

南海トラフ地震が発生した場合、本県では最大約十七万人の避難者が想定されており、能登半島地震と同様、孤立集落の発生も見込まれる。

議員からご提案のあった大規模災害時の船舶の活用等については、東日本大震災を契機に国において検討が進められており、今回の能登半島地震でも支援が国のスキームに基づいて行われたものと承知している。引き続き、国の動向を注視しながら必要に応じて国に求めていく。

今後とも、避難支援等の課題について、能登半島地震の検証結果を踏まえ、市町村や有識者と議論を深め、必要な対策を県地域防災計画等に盛り込んでいく。

新年度大分県一般会計当初予算

「人口減少対策の強化や産業の振興を進めるとともに、未来へつなげる投資を促進する」との方針のもと、総額6,898億800万円の一般会計当初予算が編成されました。 *「特」は、新おいた創造挑戦枠の対象事業

エネルギー関連産業成長促進事業

2億4,860万円

県内のエネルギー関連産業の成長を促進するため、大分県エネルギー産業企業会を中心に、本県の強みを生かしたエネルギー関連施策を展開する。

新 水素の製造から運搬、利活用に関わるモデル構築に向けた調査の実施

新 燃料電池トラックの導入に対する助成

補助率 1/2 (国費を除く負担分)
限度額 2,000万円/台

新 地熱利用の設備導入に対する助成

対象者 環境省補助金の採択を受け地熱利用設備を導入した事業者
補助率 2/3 (国1/2 県1/6) など



特 ホーバークラフト利用促進事業

3,123万円

大分空港の活性化を図るため、新たに導入するホーバークラフトの利便性向上に向けてホーバーターミナルおいた(西大分)と大分駅を結ぶ二次交通の実証調査を実施するとともに、認知度向上に向けた情報発信等を行う。

- ・シャトルバスの無料運行と二次交通に係る利用実態・ニーズ調査等の実施
- ・SNSを活用したキャンペーンや首都圏等におけるプロモーション
- ・O-Laboと連携したホーバークラフト模型製作体験 など



特 次世代空モビリティ産業促進事業

5,440万円

今後の成長が期待される次世代空モビリティ産業の振興を図るため、国内外の開発動向など各種情報を収集するとともに、参入に挑戦する県内企業を支援する。

- ・次世代空モビリティに関連する技術や製品の研究開発への助成
補助率 2/3 限度額 1,000万円 など



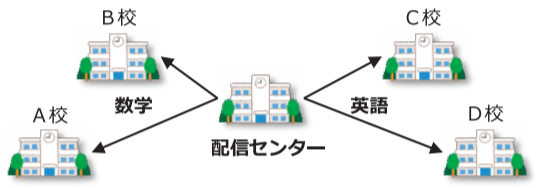
特 遠隔教育システム構築事業

1億86万円

どの地域においても生徒の可能性を最大限に伸ばし、多様で質の高い高校教育を提供するため、遠隔教育システムの整備等を行う。

- ・令和7年度開始に向けた遠隔授業配信センターの整備(英語、数学など)
- ・専門科目を実施する学校から地域の学校に遠隔授業を配信(土木、商業など)

〔配信センター方式イメージ〕



特 グリーン・コンビナートおいた創出事業

1億3,561万円

大分コンビナートのカーボンニュートラルと持続的発展の両立を実現するため、今後の官民投資の促進に向けた調査事業に取り組むとともに、水素利活用やカーボンリサイクルなどに関する実証実験等へ支援する。



新 公共交通EV車両導入支援事業

9,233万円

燃料費高騰への対策や2050年カーボンニュートラルの実現に向け、公共交通(バス・タクシー)事業者が行うEV車両導入等の取組を支援する。

- ・バス 通常枠 補助率 1/3以内 (国庫補助と合わせて2/3以内)
限度額 1,800万円 (県の補助限度額)
- 賃上げ枠 補助率 5/12以内 (国庫補助と合わせて3/4以内)
限度額 2,250万円 (県の補助限度額) など

防災士 木田昇の

防災メモ

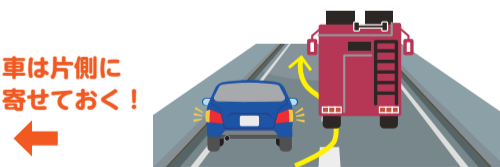
外出先で地震に遭遇したら③

能登半島地震の発生時に撮影されたドライブレコーダーには、家屋、電柱や車などの凄まじい揺れが記録されていました。

地震の際、車を運転中の場合もあります。橋梁や高架を走行中、古い橋は損壊の恐れもあり、橋を渡り終える付近であれば、減速しながら渡り切ります。



また、トンネルを通過中の場合、天井や壁面崩落の危険があるので、前方出口が見通せれば低速でトンネルを抜けます。長いトンネルの場合は、左側に寄せて停車し、キーをつけたまま非常口から脱出します。



道路は緊急車両が走行することを想定し、いずれの場合も車を片側に寄せておくことにご留意ください。

最近の活動

1月

▷けんしん大学「広域交通ネットワーク整備が地域にもたらすもの」(日本文理大学副学長:吉村 充功氏)

▷大分県警察年頭視閲式

凛とした所作、統制のとれた気合ある行進に頼もしさを感じました。各警察職員が昼夜を分かたず、県民の安全安心のため身を尽くしておられる事に敬意を表します。



▷支え合いのまちづくりシンポジウム(清川町)

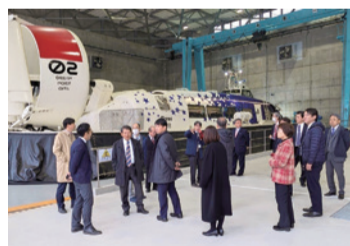
▷「災害がおきたとき、あなたはどのようにする」(ダイバーシティ研究所代表理事:田村 太郎氏)

▷宇佐国東半島および阿蘇・高千穂の魅力公開フォーラム

▷大分政経懇話会「科学捜査と捜査支援」(最高検察庁参与:服藤 恵三氏)

▷ホーバーターミナルおいた現地見学会

15年ぶりに再就航が予定されるホーバークラフト。ホーバー旅客輸送は世界で2箇所、アジアで唯一。以前のタイプより窓も広く座席(80席)もゆったりで座り心地も良くなりました。



2月

▷出前県議会 in 中津(中津市)

▷地方自治講演会「福澤諭吉の地方『分権論』」(慶應大学名誉教授:小室 正紀氏)

▷空港活性化と空港コンセッションに関する説明会

▷南大分まちづくり報告会

▷カーボンニュートラルのための建築物省エネセミナー

▷大分政経懇話会「インドのグローバルサウス戦略と日本」(防衛大学校教授:伊藤 融氏)

▷日韓友好のつどい

韓国映画「シークレット・ミッション」のチャン・チョルス監督、韓流スターも登場。圧巻は韓国伝統のテコンドーの演舞(もの凄いジャンプ力でした)。



▷第1回定例県議会開会

3月

▷連合大分2024春季生活闘争勝利総決起集会

▷東九州自動車道

「大分宮河内IC～臼杵IC間4車線化事業着工式典」

東九州道大分宮河内IC～佐伯IC間のうち、約16.1kmを2車線から4車線へ拡幅する事業です。なお、宇佐IC～院内IC間約4.6kmを2車線から4車線へ拡幅中です。



▷自治体議員連合2024春闘街頭宣伝行動

全国的に賃上げムードは高まっていますが、物価上昇分を賃上げ率が追い越せていません。「政治とカネ」の問題は断じて許されないと訴えました。



▷第1回定例県議会閉会

公式LINEはコチラ
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。

ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPIはコチラ
<https://kenmin-club.com/>



竹の子記

元日に発生した能登半島地震で、多くの方々が犠牲となったことに心から哀悼の意を表し、併せて、被災された皆様にお見舞い申し上げます。今回の地震は、海岸の近接地の大規模な断層破壊が原因と見られ、津波はもとより、地盤隆起等の想像を越える甚大な被害に改めて自然の猛威を思い知らされました。一日も早い復旧と復興が果たされるよう祈念いたします。▼アメリカ先住民に、「THE NEXT SEVEN GENERATIONS」(全文は省略)との言い伝えがあるそうです。「木を切るにしろ、魚を捕るにしろ、七世代先のことを考えてどう行動すべきか決めなければならぬ」とする教えです。▼今を生きる人々が享受できる恩恵を七世代先の子孫にも残していかなければならない、正に現代のSDGsの考えが古より子孫々に伝えられてきたことに感銘いたします。▼複雑かつ不確実で先行きの見通せない時代にある中で、本県の新たな長期総合計画を策定しなければならぬ大切な時です。七世代先となれば二百年くらい先のこととなりませんが、少なくとも私たちが、三十年、五十年先の大分県の将来像を思い描き、展望ある新たな計画を決定しなければと、意を強くしております。